

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890100989
法人名	医療法人 クリニック 暖
事業所名	グループホームファミール桑原
所在地	松山市畑寺3丁目12番30号
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H15年よりグループホームファミール桑原として10年間桑原で運営させていただいていましたが、26年8月より畑寺へクリニック暖とともに移転し運営させて頂いています。10年間桑原地区の皆様にお世話になり、築いてきた交流は変わることなく、新しい場所でも新たな出会いがありました。これからも、お年寄りが地域の皆様と交流を重ねながら、安心して生活できる環境づくりに努めていきたいと思えます。また、地域の事業所としての役割も担っていかれたらと思っています。クリニック暖と併設し、連携を取る事で日常の生活面からも医療的アドバイスをもらう事ができ、状態の変化や急変時にも迅速に対応する事が出来ます。ご希望があれば、可能な限り、看取りの意向にも対応できる体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート3階建ての2階部分にある事業所は、昨年現在地へ新築移転している。建物の3階には同法人の経営するクリニックがあり、日々の健康管理や緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。同クリニックでは密接な医療連携を活かして、地域での在宅医療や看取り支援にも積極的に取り組んでいる。事業所は同じ中学校区内に移転したため地域とのつながりは継続され、運営推進会議には多くの地域住民が参加している。年2回実施される避難訓練にも地域住民や地区防災士が参加し、協力体制を築いている。開設当初から勤務している職員も多く、豊かな経験と実績の積み重ねを感じさせる事業所である。管理者は利用者の行動の背景にあるものを想像する力を職員に持ってほしいと考え、新たな気づきなどを記録に残すことを大切にしている。職員は研修に参加する機会も多く、サービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームファミール桑原

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 谷本 貴子

評価完了日

26年10月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 申し送りやカンファレンスなどの際に基本理念に基づいて、日々のケアが出来ているか話し合う機会を持つようにしている。理念に沿った月単位の目標を職員が決めており、実践できるように掲示している。	
			(外部評価) 「①安心して生活できる環境の提供 ②個人の尊重と自立支援 ③地域交流の支援」という理念を開設時に作成している。理念は事務所や各ユニットに掲示しているほか、パンフレットや入居契約時の書類にも記載し、利用者や家族等に分かりやすく周知する工夫をしている。新入職員には、入職時に理念の趣旨を説明している。毎月カンファレンスで理念に基づいた月単位の目標を考え、ユニット毎に掲示して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 桑原から畑寺へ移転し1年が経過したが、以前からの地域との交流も大切にしながら、新たな地域との交流の機会も持つように努力している。「地域交流の支援」を理念に掲げており、運営推進会議や地域の行事などでも積極的に交流出来ている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの職員と一緒に地域で認知症の理解を深めるために人形劇を開催している。近くには短期大学があり、文化祭を見に行ったり学生の実習を受け入れるなど、相互の交流をしている。事業所には地区の小学生の訪問があり、歌を歌ったりゲームを楽しんでいる。また、地域の清掃や盆踊りなど行事に積極的に参加し交流を広めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を利用しての勉強会を地域の方々と家族様とで開催している。今回の運営推進会議では、認知症サポーター養成講座も開催する計画をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、入居者様の状況報告や、事業所としての取組み、また、職員の移動なども報告し、そこでで頂ける意見をサービス向上に生かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、2地区の町内会長、民生委員、地区防災士、地域住民、市社協職員、市担当者、地域包括支援センター職員等、多方面から多くの参加を得て開催している。会議では利用者の状況や事業所の活動報告を行うほか、避難訓練と一緒に実施したり、家族からの要請で口腔ケアなどの勉強会を開催している。また、職員には会議報告書を回覧し、情報を共有するようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を利用して、事業所の状況報告を行い、アドバイスや他の取組みの情報など、教えていただいている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、事業所の実情を把握してもらおうと共に、情報提供や助言をもらっている。事業所の消防訓練にも一緒に参加してもらっている。市社協に依頼し、月2回傾聴ボランティアの訪問があり、利用者は楽しみにしている。職員は傾聴ボランティアから新たな気づきを発見することもあり、有意義な交流に繋がっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) すべての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解するために、カンファレンスの際に資料を基に話し合う機会を年に1度は持っている。また、身体拘束をしないケア方法を行うために困難なケアの場合にも話し合いを重ね、拘束しない方法を考えている。	
			(外部評価) 玄関の自動ドアは自由に出入りすることができ、開放時にはチャイムが鳴り見守りで対応している。今までに一人で外出して帰れなくなった利用者もいるが、関係機関の協力を得て大事にはいたっていない。地域とのつながりが深まっていることから、利用者が一人で歩いていると連絡をもらう場合もある。職員はカンファレンスなどで身体拘束について話し合い、理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。医療処置のため止むを得ず拘束をしなければいけない場合には、マニュアルに沿って家族の了承を得て対応している。また、言葉の拘束にも留意し、気になる言動がある場合には管理者等が後で個別に注意するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加できる機会を作り、もちかえって勉強会につなげていく事で職員の意識を高めていくようにしている。また、職員間でもお互いに気付き注意しあえる環境作りを行い、ケアの質の向上につながっていくようにとカンファレンスなどで、話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前、後見人制度を利用されている方が居られ、その司法書士の先生に学ぶ機会もつくっていただいた。管理者は地域会議にて研修の機会もあった。自立支援制度事業、成年後見人制度を理解し、必要な方に活用して頂けるような援助が出来るよう、学ぶ機会を積極的に持ちたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約時には十分に時間を取って重要事項説明書や、契約書に沿って話をさせて頂いている。また、疑問や不安があった場合の相談窓口を設けており、入居時に案内させて頂いている。改定等での利用料の変更など際にも、同様にさせて頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事や日常でも家族様が訪ねて来て頂きやすいように機会を作り、意見や、意向を言って頂ける関係作りに努めている。また、玄関前にご意見箱を置いている。日常の様子は、毎月の新聞で御家族様に報告しており、情報がどの家族様にも伝わるようにしている。	
			(外部評価) 近隣の地域からの利用者が多く、家族の面会も多い。家族の面会時には、必ず管理者やユニットリーダーが利用者の状況を報告し、意見などを聞くようにしている。県外に住んでいる家族も帰省時には頻りに面会に訪れ、話し合いを持つようにしている。面会時には家族と利用者が一緒に昼食を食べられるよう配慮している。また、クリスマスなどの行事に家族に参加してもらい、交流を図れるよう努めている。管理者は家族から意見や要望が出やすくなるため、自主的な家族会などを持つことを検討している。	家族間で交流や情報交換を図りながら、家族からの本音の意見や要望が聞き取れるよう、協働して利用者のケアに携わっていくためにも定期的に家族会を開催するようになる取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 4月に、職員全員で自己評価を行った。その際、一人ずつ管理者や、主任と話し合う機会を持ち運営に関する職員の意見や意向を聞く機会となった。その事によって、新たに運営に反映させる問題点の気付きとなっている。	
			(外部評価) 職員全員が参加して月1回カンファレンスを開催しており、運営に関する意見を出し合っている。管理者は出された意見を代表者に伝え、反映できるよう努めている。代表者は職員の質の向上を図るため、費用補助や勤務調整を行い、研修を受けやすいよう配慮している。参加した職員は研修内容を伝達し、職員間で情報を共有している。年2回個人面談を実施しており、管理者は職員との意思疎通にも活用している。また、女性職員が働きやすいよう、産休や育休、職場復帰等の制度を活用しやすいよう支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、月1回の管理者会議を開き、職員の状況や、職場環境の状況を把握し、働きやすい環境を提供する努力をしている。親睦会などで、職員との交流の機会を持つようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験に応じた研修を受けられるように、管理者や、主任より研修をすすめたり、自ら学べるように研修の情報も職員に見える場所に掲示している。また、研修に参加した職員には報告書を提出してもらい、参加費は事業所で負担してもらえ体制も整えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修や研修など参加しを、他の事業所との交流の機会を作っている。同系列の事業所との相互研修も行い、お互いのケアの向上につながる機会となるように努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 可能な限り、利用者様ご本人に入居前に実際にホームの様子を見て頂き、納得して入居していただけるように、しっかりとお話しをうかがえるようにしている。家族様や関係機関とも情報交換を行いながら、御本人の意向や、不安をうかがえるように援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居が決まった時点から、実際に入居される間も情報交換しながら、ゆっくりと話し合いの場を作るようにしている。また、パンフレットや重要事項説明書などにそっての説明を行い、十分に理解していただき、不安無く入居していただけるように援助させていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様との情報交換を行いながら、しっかりと意向を確認し、入居に至る経緯や、関係機関からも情報をいただき、必要なサービスが受けられるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と入居者様は生活を共にしながら、年配者からの知恵や経験を教えていただける機会を作れるように努めている。職員が自然な形で、年配者を敬い、慕う気持ちが持てるような場を援助していきたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が訪ねてきやすい環境となるように訪問時間も特に決めずに、また、職員の対応も気持ちよいものとなるよう気を付けている。その際には入居者様の情報提供も行い、家族様にしか出来ない援助は、負担にならないように配慮しながら相談している。食事を一緒に取っていただく事もある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の時間を特に決めずに対応し訪問者が気軽に訪ねてこれる環境作りに努めている。家族様の協力を得ながら、墓参りや、法事、またなじみの店など昔からのなじみの関係が続くように援助している。 (外部評価) 利用者の馴染みの人や場所などの情報を、入居時に家族から聞き把握している。事業所にはいつでも訪問できることを家族に伝え、訪問を勧めている。利用開始前から利用していた化粧品販売員の訪問継続があったり、家族の協力を得て馴染みの美容院へ出かけたりできるよう支援している。管理者は親族の集まりなどの行事に利用者も参加できるよう家族に依頼し、お墓参りをしたり結婚式にも参列したりしている。また、長期の利用者は、利用者同士や職員と馴染みの関係ができてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様とゆっくりと関わる時間を作り、他の方との関係なども把握出来るようにしている。職員が関係を見守りながら、必要な場合には援助し、支え合える関係づくりが出来るように援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や家族様の心情に配慮し、退所後も必要な情報を提供できるように援助している。退所された家族様がボランティアに来て下さった事もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから始まり、日々のケアの中で利用者様の意向をゆっくり伺ったり、日頃の表情や状況から本人の意向を推測しながら、職員の気づきを記録に残して職員全体で話し合い、ケアに生かせるように努めている。 (外部評価) 管理者は「心を残すケア」を目指し、職員に利用者の話をよく聞き、丁寧に観察するよう指導している。利用者の希望や観察した気づきや内容は、利用者毎のノートに記録し職員間で情報を共有している。職員は記録を振り返ることにより、新たな気づきも発見することができ、ケアに活かせるよう努めている。また、意思表示が困難な利用者には表情やいつもと違う動きに注目し、努めて声かけを行うようにしている。	経過記録は時系列で観察事項や実施内容を列挙しているが当初の書式に戻すことを検討するなど、観察事項と職員の判断や対応を書き分けることで考え方を整理したり、ケアを客観視することが可能となるため、モニタリングにも活かせるよう職員間で話し合いをすることを期待したい。また、業務に合わせて、より充実した記録になることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメント以外にも、家族様の面会の機会を利用してお話を伺ったり、入居者様との会話の中からも情報を頂き、記録に残しながら経過等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や、心身の状態の変化などに気づき、個々の持つ力が発揮できるように努めている。それぞれの入居者様の持っている力が発揮できる環境を作っていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 生活をともにしていく中で、担当者が主となり、利用者様からの聞き取りや、気付きなどから課題や目標を見つけ出し、月に一度のカンファレンスで評価しながら毎月見直しを行っている。また、家族様の面会の際にはケアプランを確認していただき、普段の様子やプランへの意向を伺うようにしている。	
			(外部評価) 初回の介護計画は介護支援専門員が作成するが、2回目以降は利用者毎の担当者がモニタリングを行い、計画を立案している。短期目標毎の実施状況一覧を記録できる様式があり、実施状況を記録して1か月毎にカンファレンスを行い、必要に応じて見直しをしている。状態の変化がない場合でも3か月に1回は見直しをしている。作成した介護計画は家族の面会時に説明して同意を得るほか、遠方の家族には電話で説明し郵送して同意を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) バイタル、食事量、排泄などの情報以外にも、言葉や、表情、動作など、日常の様子が分かる様な記録とし、その中からの気づきで、状態の変化など早期に発見出来る事も多い。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の違ったニーズに対応出来るように、情報を頂けるよう、他事業所や、他のサービスとの連携や、情報交換などの機会を作っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアさんを積極的に受け入れ、地域との交流にも努めている。現在踊りや歌、傾聴のボランティアさん等が来てくださっている。また、学生の実習施設として受け入れ、ボランティアにも来てくださっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) クリニック暖と併設しているため、入居時に主治医の変更さ れる方が多い。以前からのかかりつけ医にも家族様の協力も 得ながら受診援助させていただいている。医療連携している クリニック暖との連携をとりながら、必要な場合は専門医へ の受診介助も援助している。	
			(外部評価) 同じ建物の3階に同法人のクリニックが併設されており、往 診や緊急時にも迅速に対応できる体制が整っているため、入 居時にクリニックをかかりつけ医に変更する利用者が多い。 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続し て受診することができるが、情報を共有するため2～3か月 に1回職員が同席している。歯科や心療内科、皮膚科など往 診の対応もしている。専門科の受診には職員が付き合い、受 診介助をしている。また、早期退院を余儀なくされる利用者 もいるが、在宅医療チームによる治療継続を行い、健康を回 復する利用者も多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) クリニック暖と併設しており医療連携をとっていることか ら、日常的に交流があり、日ごろから生活の様子も知ってい ただいているため、小さな変化も伝えることができている。 相談が早く出来ることで入居者様、職員ともに安心できる環 境である。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は、医療機関との話し合いの場には出来るだけ立ち 会わせていただき、情報交換できるように援助している。早 期退院にむけ、医療連携を結んでいる医師や、看護師との連 絡調整を行い、ホームに戻ってから適切な医療が受けら れ、安心した生活が送れるように支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に重度化した際の医療体制や看取りの体制の説明を行 い、本人の意向や、家族様の意向を伺うようにしている。ま た、状態に応じてその都度、医師や担当看護師とともに話し 合う場を設けている。	
			(外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関する 指針」を作成し、入居時に利用者や家族に説明して看取り介 護の意向を確認している。状態の変化や重度化した場合に は、その都度話し合い家族の同意を得ている。同じ建物に併 設しているクリニックと24時間365日連携した医療体制が取 られており、利用者は安心感がある。今までに利用者や家族 の要望に応え、6名の看取り介護を経験しており、終末期に は家族も寝泊りできるよう環境を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時にはすぐにクリニックへの連絡を行う事とし、指示を仰ぐ事としている。また、年に1回は消防署の指導での救急蘇生法の講習も受けている。緊急連絡網は見えるところに掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防避難訓練には、地域の方々や、近所に住む家族様も参加して下さっている。職員も全員参加とし、実際に避難しながら、一番安全に避難できる方法を考え習得している。 (外部評価) 年2回、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。訓練には利用者の家族を始めとして、町内自主防災会長や地区の防災士が毎回参加する協力体制が築けており、具体的な助言をもらっている。防災計画やマニュアルを整備し、職員全員に周知している。また、備蓄品を用意し災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に言葉使いに対し常に意識し、暖かく思いやりのある敬意のある言葉使いが出来るように話し合っている。自分たちの対応や、言葉かけが適切であるかどうか振り返る機会を持つよう話し合う場としてカンファレンスの場を活用している。 (外部評価) 職員は「利用者は人生の先輩である」という認識を持ち、過度な馴れ合いにならないように気をつけ、思いやりのある言葉づかいをしている。定期的にカンファレンス等で職員間で客観的に観察した気になることなどを話し合い、利用者の人格を尊重したケアができていくか点検している。居室への入室時は必ずノックをして入室している。また、トイレ介助時は膝にタオルをかけ、恥辱心に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の生活の中から、ゆっくり会話して表情や行動を注意深くとらえその意味を推測しながら対応するように話合っている。入居者様それぞれに担当者を付け入居者様の代弁者となれるように寄り添う努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活のリズムが優先できるように支援している。職員やホームの都合で対応できない時には事情を説明させて頂き、出来るだけ理解して頂けるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事を取り入れるなど、自然に身だしなみに気を使ったり、おしゃれをしたい気持ちになるような機会を作り	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節を感じる野菜を取り入れる事や、入居者様の希望も取り入れながら得意な事を生かせるように、下ごしらえやお米とぎ、味付けなどに活躍してもらっている。後片付けを一緒にして頂くこともある。	
			(外部評価) 利用者に希望を聞きながら、毎日その日の献立を職員が考えて買い物に行き、ユニット毎に調理をしている。若い男性職員もいるが、利用者にできることを手伝ってもらいながら一緒に調理している。利用者の嚥下機能に応じて、食事形態を工夫している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、食事介助をしながら同じものを食べている。行事には、寿司やいもたき、流しそうめんなどの特別食を用意したり、誕生日にはケーキを手作りしてお祝いをしている。また、地区の福祉センターにある障害者が運営する喫茶店に出かけるなど、お茶や外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節を感じる野菜を取り入れる事や、個々の状態に応じた調理の工夫、盛り付けなどにも気を付け、入居者様の希望も取り入れ、バランスよく楽しんで食べられる様にと援助している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事の後の口腔ケアを習慣となるように声掛けし、出来ないところは援助している。必要と思われる方には歯科衛生士による口腔ケアを取り入れ、日常的なケア方法もアドバイスいただき、取り入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを記録し状態にあわせ、日中はトイレで排泄できるように、夜間は、安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬にたよらずに、気持ちよく排泄できるように、食事や運動など工夫している。	
			(外部評価) 排泄のパターンを把握した上で、日中には声かけをして誘導し、利用者がトイレで排泄できるよう支援している。利用者に適した排泄用品を使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者に合わせた排泄支援をしている。事業所を新築移転した際に、便座全面に跳ね上げ式アームレストを設置し、楽に排泄ができるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の内容や、十分な水分摂取、適度な運動などで便秘にならないような生活が送れるように援助している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者様の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限り行っている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっただけのように、援助している。	
			(外部評価) 浴室には個別浴槽が設置され、一人ずつ入浴できるよう支援している。一人で入浴が可能な利用者には毎日夕方に職員が浴槽に湯を溜め、声かけをしながら安全に入浴できるよう支援している。利用者の身体状態に合わせて福祉用具を活用し安心安全にゆっくり入浴することができる。入浴を嫌がる利用者には、無理強いすることなく時間を代えて声かけをする工夫をしている。また、季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間、安眠できるように日中の過ごし方にも気を付け個々に合わせて運動なども取り入れている。日中も自由にベッドや、ソファなどで休息できるように援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時には御本人に分かりやすく主治医からも説明してもらっている。受診時や往診時には必ず家族様か職員が説明を聞くようにしている。また、情報提供も行っている。服薬管理を調剤薬局に管理していただいているため、飲み方や、気になる事などはその都度相談、指示をいただいている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居以前の生活歴などをご本人や家族様などから伺いまた、趣味や、得意な事などを生活の中に取り入れるようにしている。また、出来ることは継続できるように支援している。レクリエーションや、クラブ活動として、職員も一緒に楽しめる事を行っている。外出の機会や各ユニット内の交流、ボランティアの訪問など、気分転換や人との交流などの機会も設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の計画は入居者様の希望を取り入れながら計画している。また、気の合う方同士の外出や、個々の外出なども家族様の協力も得ながら行っている。日常的に散歩や、買い物なども取り入れている。 (外部評価) 日頃から事業所周辺や近隣の公園まで散歩したり、スーパーに買い物に出かけたりしている。初詣や花見、ドライブなどの年間計画を立て、外出できるよう支援している。また、福祉車輛や大型の乗用車を活用して、ほとんどの利用者が一緒に外出し、外食を楽しめるよう努めている。利用者の希望に応じて自宅に帰ったり、成年後見人等と一緒にお墓参りに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の状態にあわせ、家族様とも相談しながら、ご自分でお金を所持されているかたもおられる。普段は管理させていただいている方も、外出の際には自分でお財布を持っただき払っていただく機会を作っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者さまが十分に行えない部分は援助しながら電話や手紙のやりとりも支援している。年賀状や、季節に合わせた挨拶状なども、援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間には、きせつの花を飾ったり、写真を飾ったりしながら、心地の良い空間となるように工夫している。窓からは山の緑もみえ、日向ぼっこを楽しめる場所にもなっている。</p> <p>(外部評価) 事業所の新築移転時に職員の意見を取り入れ、利用者が生活しやすく職員も働きやすい空間づくりをしている。浴室には暖房が設置され、トイレの手すりを増やすなど、利用者が居心地良く過ごしやすいよう随所に工夫が見られる。リビングには食卓やソファが置かれ、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができる。ベランダに面した窓は大きく、遮るものがないため近くの山々や神社を見渡することができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 自由に、気に入った場所で過ごせるようにユニット間も行き来できる環境になっている。また、椅子やソファなどそれぞれ自由に過ごせるような場所づくりをおこなっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 一人一人、気に入った個室をつくっていただき、落ち着ける場所になるように家族様や、思い出の写真などもかざっている。なじみの家具や物なども持ち込んでいただけるように入居時にもお話をさせていただいている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、洋服ダンス、チェスト、エアコンが備え付けられている。利用者が自宅で愛用していた丸机やいす、整理ダンスなどを持ち込み、好みの配置をしている。家具の上には、家族の写真や家族からの贈り物が飾られている。花やぬいぐるみも飾られ、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりや、表札、表示などを利用し、分かりづらい所や、困っている場合には迅速に対応している。日用品を工夫したり改修や介護用品を取り入れ、安全に生活できるように援助している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890100989
法人名	医療法人 クリニック暖
事業所名	グループホーム ファミール桑原
所在地	松山市畑寺3丁目12番30号
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H15年よりグループホームファミール桑原として10年間桑原で運営させていただいていましたが、26年8月より畑寺へクリニック暖とともに移転し運営させて頂いています。10年間桑原地区の皆様にお世話になり、築いてきた交流は変わることなく、新しい場所でも新たな出会いがありました。これからも、お年寄りが地域の皆様と交流を重ねながら、安心して生活できる環境づくりに努めていきたいと思えます。また、地域の事業所としての役割も担っていかれたらと思っています。クリニック暖と併設し、連携を取る事で日常の生活面からも医療的アドバイスをもらう事ができ、状態の変化や急変時にも迅速に対応する事が出来ます。ご希望があれば、可能な限り、看取りの意向にも対応できる体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート3階建ての2階部分にある事業所は、昨年現在地へ新築移転している。建物の3階には同法人の経営するクリニックがあり、日々の健康管理や緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。同クリニックでは密接な医療連携を活かして、地域での在宅医療や看取り支援にも積極的に取り組んでいる。事業所は同じ中学校区内に移転したため地域とのつながりは継続され、運営推進会議には多くの地域住民が参加している。年2回実施される避難訓練にも地域住民や地区防災士が参加し、協力体制を築いている。開設当初から勤務している職員も多く、豊かな経験と実績の積み重ねを感じさせる事業所である。管理者は利用者の行動の背景にあるものを想像する力を職員に持ってほしいと考え、新たな気づきなどを記録に残すことを大切にしている。職員は研修に参加する機会も多く、サービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどできていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームファミール桑原

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 谷本 貴子

評価完了日

26年10月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 申し送りやカンファレンスなどの際に基本理念に基づいて、日々のケアが出来ているか話し合う機会を持つようにしている。理念に沿った月単位の目標を職員が決めており、実践できるように掲示している。	
			(外部評価) 「①安心して生活できる環境の提供 ②個人の尊重と自立支援 ③地域交流の支援」という理念を開設時に作成している。理念は事務所や各ユニットに掲示しているほか、パンフレットや入居契約時の書類にも記載し、利用者や家族等に分かりやすく周知する工夫をしている。新入職員には、入職時に理念の趣旨を説明している。毎月カンファレンスで理念に基づいた月単位の目標を考え、ユニット毎に掲示して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 桑原から畑寺へ移転し1年が経過したが、以前からの地域との交流も大切にしながら、新たな地域との交流の機会も持つように努力している。「地域交流の支援」を理念に掲げており、運営推進会議や地域の行事などでも積極的に交流出来ている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターの職員と一緒に地域で認知症の理解を深めるために人形劇を開催している。近くには短期大学があり、文化祭を見に行ったり学生の実習を受け入れるなど、相互の交流をしている。事業所には地区の小学生の訪問があり、歌を歌ったりゲームを楽しんでいる。また、地域の清掃や盆踊りなど行事に積極的に参加し交流を広めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を利用しての勉強会を地域の方々と家族様とで開催している。今回の運営推進会議では、認知症サポーター養成講座も開催する計画をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、入居者様の状況報告や、事業所としての取り組み、また、職員の移動なども報告し、そこでで頂ける意見をサービス向上に生かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、2地区の町内会長、民生委員、地区防災士、地域住民、市社協職員、市担当者、地域包括支援センター職員等、多方面から多くの参加を得て開催している。会議では利用者の状況や事業所の活動報告を行うほか、避難訓練と一緒に実施したり、家族からの要請で口腔ケアなどの勉強会を開催している。また、職員には会議報告書を回覧し、情報を共有するようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を利用して、事業所の状況報告を行い、アドバイスや他の取り組みの情報など、教えていただいている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し、事業所の実情を把握してもらおうと共に、情報提供や助言をもらっている。事業所の消防訓練にも一緒に参加してもらっている。市社協に依頼し、月2回傾聴ボランティアの訪問があり、利用者は楽しみにしている。職員は傾聴ボランティアから新たな気づきを発見することもあり、有意義な交流に繋がっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) すべての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解するために、カンファレンスの際に資料を基に話し合う機会を年に1度は持っている。また、身体拘束をしないケア方法を行うために困難なケアの場合にも話し合いを重ね、拘束しない方法を考えている。	
			(外部評価) 玄関の自動ドアは自由に出入りすることができ、開放時にはチャイムが鳴り見守りで対応している。今までに一人で外出して帰れなくなった利用者もいるが、関係機関の協力を得て大事にはいたっていない。地域とのつながりが深まっていることから、利用者が一人で歩いていると連絡をもらう場合もある。職員はカンファレンスなどで身体拘束について話し合い、理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。医療処置のため止むを得ず拘束をしなければいけない場合には、マニュアルに沿って家族の了承を得て対応している。また、言葉の拘束にも留意し、気になる言動がある場合には管理者等が後で個別に注意するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加できる機会を作り、もちかえって勉強会につなげていく事で職員の意識を高めていくようにしている。また、職員間でもお互いに気付き注意しあえる環境作りを行い、ケアの質の向上につながっていくようにとカンファレンスなどで、話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前、後見人制度を利用されている方が居られ、その司法書士の先生に学ぶ機会もつくっていただいた。管理者は地域会議にて研修の機会もあった。自立支援制度事業、成年後見人制度を理解し、必要な方に活用して頂けるような援助が出来るよう、学ぶ機会を積極的に持ちたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約時には十分に時間を取って重要事項説明書や、契約書に沿って話をさせて頂いている。また、疑問や不安があった場合の相談窓口を設けており、入居時に案内させて頂いている。改定等での利用料の変更など際にも、同様にさせて頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 行事や日常でも家族様が訪ねて来て頂きやすいように機会を作り、意見や、意向を言って頂ける関係作りに努めている。また、玄関前にご意見箱を置いている。日常の様子は、毎月の新聞で御家族様に報告しており、情報がどの家族様にも伝わるようにしている。 (外部評価) 近隣の地域からの利用者が多く、家族の面会も多い。家族の面会時には、必ず管理者やユニットリーダーが利用者の状況を報告し、意見などを聞くようにしている。県外に住んでいる家族も帰省時には頻回に面会に訪れ、話し合いを持つようにしている。面会時には家族と利用者が一緒に昼食を食べられるよう配慮している。また、クリスマスなどの行事に家族に参加してもらい、交流を図れるよう努めている。管理者は家族から意見や要望が出やすくなるため、自主的な家族会などを持つことを検討している。	家族間で交流や情報交換を図りながら、家族からの本音の意見や要望が聞き取れるよう、協働して利用者のケアに携わっていくためにも定期的に家族会を開催するようになる取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 4月に、職員全員で自己評価を行った。その際、一人ずつ管理者や、主任と話し合う機会を持ち運営に関する職員の意見や意向を聞く機会となった。その事によって、新たに運営に反映させる問題点の気付きとなっている。	
			(外部評価) 職員全員が参加して月1回カンファレンスを開催しており、運営に関する意見を出し合っている。管理者は出された意見を代表者に伝え、反映できるよう努めている。代表者は職員の質の向上を図るため、費用補助や勤務調整を行い、研修を受けやすいよう配慮している。参加した職員は研修内容を伝達し、職員間で情報を共有している。年2回個人面談を実施しており、管理者は職員との意思疎通にも活用している。また、女性職員が働きやすいよう、産休や育休、職場復帰等の制度を活用しやすいよう支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、月1回の管理者会議を開き、職員の状況や、職場環境の状況を把握し、働きやすい環境を提供する努力をしている。親睦会などで、職員との交流の機会を持つようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験に応じた研修を受けられるように、管理者や、主任より研修をすすめたり、自ら学べるように研修の情報も職員に見える場所に掲示している。また、研修に参加した職員には報告書を提出してもらい、参加費は事業所で負担してもらえ体制も整えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修や研修など参加しを、他の事業所との交流の機会を作っている。同系列の事業所との相互研修も行い、お互いのケアの向上につながる機会となるように努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 可能な限り、利用者様ご本人に入居前に実際にホームの様子を見て頂き、納得して入居していただけるように、しっかりとお話しをうかがえるようにしている。家族様や関係機関とも情報交換を行いながら、御本人の意向や、不安をうかがえるように援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居が決まった時点から、実際に入居される間も情報交換しながら、ゆっくりと話し合いの場を作るようにしている。また、パンフレットや重要事項説明書などにそっての説明を行い、十分に理解していただき、不安無く入居していただけるように援助させていただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族様との情報交換を行いながら、しっかりと意向を確認し、入居に至る経緯や、関係機関からも情報をいただき、必要なサービスが受けられるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員と入居者様は生活を共にしながら、年配者からの知恵や経験を教えていただける機会を作れるように努めている。職員が自然な形で、年配者を敬い、慕う気持ちが持てるような場を援助していきたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が訪ねてきやすい環境となるように訪問時間も特に決めずに、また、職員の対応も気持ちよいものとなるよう気を付けている。その際には入居者様の情報提供も行い、家族様にしか出来ない援助は、負担にならないように配慮しながら相談している。食事を一緒に取っていただく事もある。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の時間を特に決めずに対応し訪問者が気軽に訪ねてくれる環境作りに努めている。家族様の協力を得ながら、墓参りや、法事、またなじみの店など昔からのなじみの関係が続くように援助している。 (外部評価) 利用者の馴染みの人や場所などの情報を、入居時に家族から聞き把握している。事業所にはいつでも訪問できることを家族に伝え、訪問を勧めている。利用開始前から利用していた化粧品販売員の訪問継続があったり、家族の協力を得て馴染みの美容院へ出かけたりできるよう支援している。管理者は親族の集まりなどの行事に利用者も参加できるよう家族に依頼し、お墓参りをしたり結婚式にも参列したりしている。また、長期の利用者は、利用者同士や職員と馴染みの関係ができてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様とゆっくりと関わる時間を作り、他の方との関係なども把握出来るようにしている。職員が関係を見守りながら、必要な場合には援助し、支え合える関係づくりが出来るように援助している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 個人情報や家族様の心情に配慮し、退所後も必要な情報を提供できるように援助している。退所された家族様がボランティアに来て下さった事もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 入居時のアセスメントから始まり、日々のケアの中で利用者様の意向をゆっくり伺ったり、日頃の表情や状況から本人の意向を推測しながら、職員の気づきを記録に残して職員全体で話し合い、ケアに生かせるように努めている。 (外部評価) 管理者は「心を残すケア」を目指し、職員に利用者のお話をよく聞き、丁寧に観察するよう指導している。利用者の希望や観察した気づきや内容は、利用者毎のノートに記録し職員間で情報を共有している。職員は記録を振り返ることにより、新たな気づきも発見することができ、ケアに活かせるよう努めている。また、意思表示が困難な利用者には表情やいつもと違う動きに注目し、努めて声かけを行うようにしている。	経過記録は時系列で観察事項や実施内容を列挙しているが当初の書式に戻すことを検討するなど、観察事項と職員の判断や対応を書き分けることで考え方を整理したり、ケアを客観視することが可能となるため、モニタリングにも活かせるよう職員間で話し合いをすることを期待したい。また、業務に合わせて、より充実した記録になることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメント以外にも、家族様の面会の機会を利用してお話を伺ったり、入居者様との会話の中からも情報を頂き、記録に残しながら経過等の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の様子を細かく記録に残し、体調の変化や、心身の状態の変化などに気づき、個々の持つ力が発揮できるように努めている。それぞれの入居者様の持っている力が発揮できる環境を作っていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 生活をともにしていく中で、担当者が主となり、利用者様からの聞き取りや、気付きなどから課題や目標を見つけ出し、月に一度のカンファレンスで評価しながら毎月見直しを行っている。また、家族様の面会の際にはケアプランを確認していただき、普段の様子やプランへの意向を伺うようにしている。 (外部評価) 初回の介護計画は介護支援専門員が作成するが、2回目以降は利用者毎の担当者がモニタリングを行い、計画を立案している。短期目標毎の実施状況一覧を記録できる様式があり、実施状況を記録して1か月毎にカンファレンスを行い、必要に応じて見直しをしている。状態の変化がない場合でも3か月に1回は見直しをしている。作成した介護計画は家族の面会時に説明して同意を得るほか、遠方の家族には電話で説明し郵送して同意を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) バイタル、食事量、排泄などの情報以外にも、言葉や、表情、動作など、日常の様子が分かる様な記録とし、その中からの気づきで、状態の変化など早期に発見出来る事も多い。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の違ったニーズに対応出来るように、情報を頂けるよう、他事業所や、他のサービスとの連携や、情報交換などの機会を作っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアさんを積極的に受け入れ、地域との交流にも努めている。現在踊りや歌、傾聴のボランティアさん等が来てくださっている。また、学生の実習施設として受け入れ、ボランティアにも来てくださっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) クリニック暖と併設しているため、入居時に主治医の変更さ れる方が多い。以前からのかかりつけ医にも家族様の協力も 得ながら受診援助させていただいている。医療連携している クリニック暖との連携をとりながら、必要な場合は専門医へ の受診介助も援助している。</p> <p>(外部評価) 同じ建物の3階に同法人のクリニックが併設されており、往 診や緊急時にも迅速に対応できる体制が整っているため、入 居時にクリニックをかかりつけ医に変更する利用者が多い。 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続し て受診することができるが、情報を共有するため2～3か月 に1回職員が同席している。歯科や心療内科、皮膚科など往 診の対応もしている。専門科の受診には職員が付き合い、受 診介助をしている。また、早期退院を余儀なくされる利用者 もいるが、在宅医療チームによる治療継続を行い、健康を回 復する利用者も多い。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) クリニック暖と併設しており医療連携をとっていることか ら、日常的に交流があり、日ごろから生活の様子も知ってい ただいているため、小さな変化も伝えることができている。 相談が早く出来ることで入居者様、職員ともに安心できる環 境である。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院の際は、医療機関との話し合いの場には出来るだけ立ち 会わせていただき、情報交換できるように援助している。早 期退院にむけ、医療連携を結んでいる医師や、看護師との連 絡調整を行い、ホームに戻ってから適切な医療が受けら れ、安心した生活が送れるように支援している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時に重度化した際の医療体制や看取りの体制の説明を行 い、本人の意向や、家族様の意向を伺うようにしている。ま た、状態に応じてその都度、医師や担当看護師とともに話し 合う場を設けている。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合における対応に係る指針、看取りに関する 指針」を作成し、入居時に利用者や家族に説明して看取り介 護の意向を確認している。状態の変化や重度化した場合に は、その都度話し合い家族の同意を得ている。同じ建物に併 設しているクリニックと24時間365日連携した医療体制が取 られており、利用者は安心感がある。今までに利用者や家族 の要望に応え、6名の看取り介護を経験しており、終末期に は家族も寝泊りできるよう環境を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時にはすぐにクリニックへの連絡を行う事とし、指示を仰ぐ事としている。また、年に1回は消防署の指導での救急蘇生法の講習も受けている。緊急連絡網は見えるところに掲示している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防避難訓練には、地域の方々や、近所に住む家族様も参加して下さっている。職員も全員参加とし、実際に避難しながら、一番安全に避難できる方法を考え習得している。 (外部評価) 年2回、夜間想定を含めた避難訓練を実施している。訓練には利用者の家族を始めとして、町内自主防災会長や地区の防災士が毎回参加する協力体制が築けており、具体的な助言をもらっている。防災計画やマニュアルを整備し、職員全員に周知している。また、備蓄品を用意し災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 特に言葉使いに対し常に意識し、暖かく思いやりのある敬意のある言葉使いが出来るように話し合っている。自分たちの対応や、言葉かけが適切であるかどうか振り返る機会を持つよう話し合う場としてカンファレンスの場を活用している。 (外部評価) 職員は「利用者は人生の先輩である」という認識を持ち、過度な馴れ合いにならないように気をつけ、思いやりのある言葉づかいをしている。定期的にカンファレンス等で職員間で客観的に観察した気になることなどを話し合い、利用者の人格を尊重したケアができていくか点検している。居室への入室時は必ずノックをして入室している。また、トイレ介助時は膝にタオルをかけ、恥辱心に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 普段の生活の中から、ゆっくり会話したり表情や行動を注意深くとらえその意味を推測しながら対応するように話合っている。入居者様それぞれに担当者を付け入居者様の代弁者となれるように寄り添う努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の生活のリズムが優先できるように支援している。職員やホームの都合で対応できない時には事情を説明させて頂き、出来るだけ理解して頂けるようにしている。また、別の機会を設けるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 地域との交流、外出の機会、行事を取り入れるなど、自然に身だしなみに気を使ったり、おしゃれをしたい気持ちになるような機会を作り	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節を感じる野菜を取り入れる事や、入居者様の希望も取り入れながら得意な事を生かせるように、下ごしらえやお米とぎ、味付けなどに活躍してもらっている。後片付けを一緒にして頂くこともある。	
			(外部評価) 利用者に希望を聞きながら、毎日その日の献立を職員が考えて買い物に行き、ユニット毎に調理をしている。若い男性職員もいるが、利用者にできることを手伝ってもらいながら一緒に調理している。利用者の嚥下機能に応じて、食事形態を工夫している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、食事介助をしながら同じものを食べている。行事には、寿司やいもたき、流しそうめんなどの特別食を用意したり、誕生日にはケーキを手作りしてお祝いをしている。また、地区の福祉センターにある障害者が運営する喫茶店に出かけるなど、お茶や外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 季節を感じる野菜を取り入れる事や、個々の状態に応じた調理の工夫、盛り付けなどにも気を付け、入居者様の希望も取り入れ、バランスよく楽しんで食べられる様にと援助している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事の後の口腔ケアを習慣となるように声掛けし、出来ないところは援助している。必要と思われる方には歯科衛生士による口腔ケアを取り入れ、日常的なケア方法もアドバイスいただき、取り入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを記録し状態にあわせ、日中はトイレで排泄できるように、夜間は、安眠を目的とした排泄の援助を行っている。なるべく薬にたよらずに、気持ちよく排泄できるように、食事や運動など工夫している。	
			(外部評価) 排泄のパターンを把握した上で、日中には声かけをして誘導し、利用者がトイレで排泄できるよう支援している。利用者に適した排泄用品を使用したり、夜間のみポータブルトイレを使用したりするなど、利用者に合わせた排泄支援をしている。事業所を新築移転した際に、便座全面に跳ね上げ式アームレストを設置し、楽に排泄ができるよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の内容や、十分な水分摂取、適度な運動などで便秘にならないような生活が送れるように援助している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者様の希望や、状態にあわせ、入浴日や時間の設定を可能な限り行っている。夕食後に入浴される方もおられる。入浴が楽しみや、憩いの時間となるように、ゆっくりと湯船につかっただけのように、援助している。	
			(外部評価) 浴室には個別浴槽が設置され、一人ずつ入浴できるよう支援している。一人で入浴が可能な利用者には毎日夕方に職員が浴槽に湯を溜め、声かけをしながら安全に入浴できるよう支援している。利用者の身体状態に合わせて福祉用具を活用し安心安全にゆっくり入浴することができる。入浴を嫌がる利用者には、無理強いすることなく時間を代えて声かけをする工夫をしている。また、季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯を楽しむようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間、安眠できるように日中の過ごし方にも気を付け個々に合わせて運動なども取り入れている。日中も自由にベッドや、ソファなどで休息できるように援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 往診時には御本人に分かりやすく主治医からも説明してもらっている。受診時や往診時には必ず家族様か職員が説明を聞くようにしている。また、情報提供も行っている。服薬管理を調剤薬局に管理していただいているため、飲み方や、気になる事などはその都度相談、指示をいただいている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居以前の生活歴などをご本人や家族様などから伺いまた、趣味や、得意な事などを生活の中に取り入れるようにしている。また、出来ることは継続できるように支援している。レクリエーションや、クラブ活動として、職員も一緒に楽しめる事を行っている。外出の機会や各ユニット内の交流、ボランティアの訪問など、気分転換や人との交流などの機会も設けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の計画は入居者様の希望を取り入れながら計画している。また、気の合う方同士の外出や、個々の外出なども家族様の協力も得ながら行っている。日常的に散歩や、買い物なども取り入れている。 (外部評価) 日頃から事業所周辺や近隣の公園まで散歩したり、スーパーに買い物に出かけたりしている。初詣や花見、ドライブなどの年間計画を立て、外出できるよう支援している。また、福祉車輛や大型の乗用車を活用して、ほとんどの利用者が一緒に外出し、外食を楽しめるよう努めている。利用者の希望に応じて自宅に帰ったり、成年後見人等と一緒にお墓参りに出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の状態にあわせ、家族様とも相談しながら、ご自分でお金を所持されているかたもおられる。普段は管理させていただいている方も、外出の際には自分でお財布を持っただき払っていただく機会を作っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者さまが十分に行えない部分は援助しながら電話や手紙のやりとりも支援している。年賀状や、季節に合わせた挨拶状なども、援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有空間には、きせつの花を飾ったり、写真を飾ったりしながら、心地の良い空間となるように工夫している。窓からは山の緑もみえ、日向ぼっこを楽しめる場所にもなっている。 (外部評価) 事業所の新築移転時に職員の意見を取り入れ、利用者が生活しやすく職員も働きやすい空間づくりをしている。浴室には暖房が設置され、トイレの手すりを増やすなど、利用者が居心地良く過ごしやすいよう随所に工夫が見られる。リビングには食卓やソファが置かれ、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができる。ベランダに面した窓は大きく、遮るものがないため近くの山々や神社を見渡することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自由に、気に入った場所で過ごせるようにユニット間も行き来できる環境になっている。また、椅子やソファなどそれぞれ自由に過ごせるような場所づくりをおこなっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 一人一人、気に入った個室をつくっていただき、落ち着ける場所になるように家族様や、思い出の写真などもかざっている。なじみの家具や物なども持ち込んでいただけるように入居時にもお話をさせていただいている。 (外部評価) 居室はベッド、洋服ダンス、チェスト、エアコンが備え付けられている。利用者が自宅で愛用していた丸机やいす、整理ダンスなどを持ち込み、好みの配置をしている。家具の上には、家族の写真や家族からの贈り物が飾られている。花やぬいぐるみも飾られ、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりや、表札、表示などを利用し、分かりづらい所や、困っている場合には迅速に対応している。日用品を工夫したり改修や介護用品を取り入れ、安全に生活できるように援助している。	